

CVFB

調布市消防団
広報誌

第3号

平成24年（2012年）1月8日 通刊第3号 発行／調布市消防団事務局 東京都調布市小島町2-33-1 文化会館たづくり西館3階 総合防災安全課内 TEL 042-481-7348



CONTENTS

分団紹介&写真で見る分団活動	P2
消防団員の装備・服装紹介	P3
消防団の今後の行事予定	P4
震災消防訓練を実施しました	P4
防災市民メールが始まります(お知らせ)	P4

調布市消防団は、本部および全15個分団体制で消防団長以下304名により構成されています。



団員は、火災、河川の氾濫や地震などの災害時に市民の皆様の安全・安心を守るために、日夜消防活動に取り組んでいます。

我々、消防団員は普段は自営業やサラリーマンなどの生業を営んでおりますが、平素より訓練を重ねており、いざ災害という時には「郷土愛護」の精神のもと、昼夜を分かたず消防活動に臨みます。その基本理念を忘れず、調布市消防団員304名が一致団結してこそ、あらゆる災害と対峙していけるものと考えております。

今後におきましても、これまで以上の努力と研鑽を重ね、調布市ならびに調布市民の皆様の暮らしを守っていくべく、精進してまいります。

結びに、市民の皆様におかれましては、今後も調布市消防団へのより一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます。

調布市消防団長
清水孝夫

新年あけましておめでとございませう。市民の皆様には平素より調布市消防団の活動にご理解とご協力をいただいておりますこと深く感謝申し上げます。

昨年4月1日に調布市消防団第14代団長を拝命しました。調布市の消防防災の二翼を担う組織の長に就任し、その責務の大きさに身が引き締まる思いです。

昨年3月11日には東日本大震災が発生し、多くの尊い命が失われました。心よりご冥福をお祈りいたします。また、夏場から秋口にかけては台風や集中豪雨が猛威を振り、調布市内においても部地域において倒木や浸水による被害に見舞われました。時として猛威を振るう災害と立ち向かう消防活動に携わることは、並大抵の気持ちでは務まらないと痛感いたしました。同時に、市民の皆様様の安全・安心を守るという目的の崇高さを改めて認識したところであります。

分団紹介

調布市の各地域を担当する分団の紹介です。
3 個分団ずつ、分団長からのコメントと分団の活動写真により紹介していきます。

第2分団

第2分団は上石原地域、調布飛行場および野水を含む調布市の西側地域を活動範囲としており、調布市と隣接する府中市や三鷹市にも応援活動しています。

日頃の活動としては火災発生時の消火活動をはじめ、消火訓練、火災予防の広報活動、消火栓や防火貯水槽などの点検を行っており、時には地域の防災活動のお手伝いもさせて頂いております。とりわけ力を注いでいることとして、操法訓練を始めとする消火活動を円滑迅速に行うための訓練です。これらの訓練や点検等の積み重ねが団員の技術と意識の向上に繋がり、いざという時に真価を発揮していくと考えております。

東日本大震災以降、自主防災の機運が高まっています。私達も地域の皆様が安心して暮らせるよう、さらなる努力をこれからも続けて参ります。

第2分団長 林 秀喜



仕事後でも訓練は欠かさない



ホースを一本ずつ丁寧に片付ける



どんな不具合も見逃さないよう点検は綿密に



消火栓の雪かきを行い火災に備える



防火貯水槽に水を補充する



装備を整え、いざ出動

第7分団

第7分団は国領町、染地の一部を担当しております。また、状況に応じて隣接する布田、八雲台、多摩川河川敷等も活動範囲として、日々消防活動に取り組んでおります。

災害発生時の活動はもちろんですが、担当地域である上ヶ給自治会と連携し「防災の集い」を行ったり、小学校、幼稚園、保育園等に出向いてポンプ車の展示や訓練などの活動を行うなど、特に防災意識の啓発にも力を注いでいます。また、長年操法訓練にも力を入れており、調布市ポンプ車操法大会では入賞を重ね、平成20年に参加した東京都大会では第5位入賞という結果を収めました。

今後も、災害現場において迅速かつ安全な行動がとれるよう更なる訓練を重ねるとともに、より一層地域との連携を深めて参ります。

第7分団長 久保田記尉



地域の人々とともに図上訓練を行う



火災の初期活動について説明を行う



幼稚園でポンプ車の乗車体験を行う



消火活動だけでなく応急救命の訓練も実践する



操法大会では日ごろの訓練成果を発揮する



地域防災訓練で消火器の使用法を実演する

第12分団

我々第12分団は、東つつじヶ丘、入間町および若葉町までの地域を担当しています。

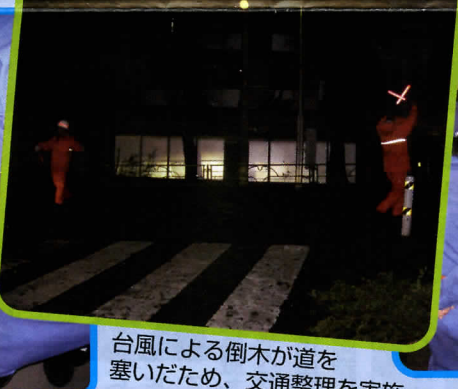
農地や緑が数多く残る穏やかな地域ではありますが、狭く入り込んだ道や勾配の厳しい坂など、車両の通行が難しい場所が多く、災害発生時の活動には困難が予想されます。また、過去に起こった集中豪雨では、地域を流れる入間川が氾濫し、浸水被害などの事態に見舞われたため、火災だけでなく水害対策も怠ることができません。

日頃の警戒活動や点検等において、ポンプ車が入れる道がどこにあるのか、最適な水利はどこであるかなど地域内を確認し、いざという時に迅速かつ最善の対応ができるよう、日々練成に励んでおります。

第12分団長 新井克侑



台風接近前に側溝のゴミを片付ける



台風による倒木が道を塞いだため、交通整理を実施



全員で訓練内容を点検する



防火貯水槽の水を使った可搬ポンプ訓練



地域の防災訓練で放水の体験指導を行う



地域のお祭りの警備も行う

消防団員の装備・ 服装紹介

消防団員は活動の内容に応じて、様々な姿で活動しております。
このコーナーでは皆様に消防団を知って頂くため、消防団員の主な
装備品等をご紹介します。



アポロキャップ

訓練時や警戒時等、様々な
シーンで着用します。

階級章

調布市消防団では7つの階級があります。
階級は経験に応じて昇任します。



団長



副団長



分団長



副分団長



部長



班長



団員



MCA無線機

震災などの災害時には電
話が不通になることが予
想されます。どのような状
況でも連絡が取れるよう
配備されています。



腕章

階級に応じて色が分か
れています。本部役員は白、
分団長は赤、副分団長は
緑、以下の分団員は紫と
なっています。

作業服

作業服は、もっとも着用する機会
の多い服装です。災害活動時はも
とより、訓練や警戒活動など、あらゆる
シーンで着用されます。

5ウェイポシェット

作業靴

災害時や訓練時などの活動
全般で着用します。



防火衣

消防団員の花型とも言える装備品です。主に火災
現場で装備し、火の手や水から身を守ります。

LEDヘッドライト

夜中や暗がりの活動を助け
てくれます。通常のヘルメ
ットにも着用可能。

防火帽

首周りを覆う「しころ」の
付いたヘルメット。パイ
ザー付き。

防火衣

難燃性と撥水性を有する
素材で作られた消防服。
夜目にも映える金色が調
布市消防団のトレードマ
ーク。

防火手袋

耐熱性と切創抵抗に
優れたケブラー繊維
素材の手袋。



黒短靴

出初式や表彰式等で
着用します。



制服

式典やお祭りの警備など
で正装として着用されま
す。夏の制服を「盛夏服」
(右)、冬場に着用するも
のを「制服」(左)と呼んで
おります。

精勤章

左肩のワッペンは、3年間の勤
続で成績優良な団員に付与さ
れるものです。3年ごとに金線
1本が増え、15年勤続で銀線
が入ります。



21年目



18年目



15年目



12年目



9年目



6年目



3年目

雨具

大雨や冠水時など水害時の装備です。

長靴

消防団マークが
入った長靴



銀長靴

消火活動で水が入り
込まないよう足の付け
根までを覆える長靴。



ヘルメット

訓練や災害活動時に着
用します。階級に応じて
赤線が増えます。

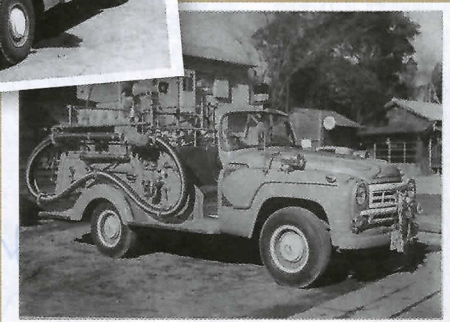
平成24年の主な予定

1月8日 出初式
1月26日 文化財防火演習
3月1日 機械器具特別点検
3月1～7日 春の火災予防運動
4月1日 新入団員等任命式
4月末日 機関員訓練・規律訓練
5月中旬 基本操法訓練
9月下旬 総合水防訓練
10月中旬 北多摩消防大会
10月9～15日 総合防災訓練
11月中旬 秋の火災予防運動
11月 震災消防訓練
12月下旬 歳末消防特別警戒

ほか、地域の防災訓練や催事等にも参加しています。
(予定は変更される場合があります。各行事の詳細は消防団事務局までお問い合わせください。)

消防歴史写真館

調布市消防団のポンプ車は、昭和7年3月に手引きガソリンポンプ、続いて米国から輸入したフォード車消防ポンプ1台を導入し、以降、更新のたびに消防ポンプ自動車の近代化を図り、改良を続けてまいりました。いまでも、液晶ディスプレイ等が装備される先鋭ポンプ車となりましたが、それまでは三輪自動車やドアの無い車両で構成されていました。



震災消防訓練 無線運用訓練

消防団本部



団長(左端)を中心に、分団への指示を決定する



分団に指示を流す副団長

分団機械器具置場



地図を手に出場報告を行う



出場準備の最中にも指令は飛んでくる



出場指令を受け地図上で災害現場を確認する

調布消防署本部



消防署にて情報収集する副団長(中)と第3分団長(左)

震災消防訓練

平成23年11月26日、震災時の消防活動を想定して調布消防署と連携して訓練を行いました。

(1) 無線運用訓練
無線による通信訓練および図上訓練を実施しました。これは消防署からの出場依頼を受けた消防団本部が、本部から分団に対して無線により出場指令を出し、現状と活動内容を分団から本部に返信するというものです。

(2) 遠距離高圧放水・長時間送水訓練
震災時は、あらゆる場所で火災が発生するとともに、断水により消火栓が使用できない状況が予想されます。この訓練では、多摩川を水利とし、30本のホースにより3台の消防ポンプ車で中継・送水し、遠距離消火活動を想定した放水訓練を行いました。

震災消防訓練 遠距離高圧放水・長時間送水訓練



副団長に現場到着を報告する



1本20mのホースを30本繋げ遠距離・高圧放水を行う



ポンプ車を使い多摩川から水を上げる



通常の3倍の高圧での放水訓練を実施



出初式の一斉放水さながらの長時間放水訓練

調布市市民防災情報メールの配信が始まりました!

登録されたパソコンや携帯電話に下記の情報が配信されます。



- 緊急のお知らせ
- 気象注意報・警報(調布市)
- 地震情報
- 週末の天気予報
- 市からのお知らせ

◇登録方法

下記アドレスまたは右のQRコードに空メールを送信して下さい。

entry-chofu@bousai-mail.jp

問い合わせ: 調布市総合防災安全課 042-481-7346

地震時の行動

地震の時は、まず身の安全を図り揺れがおさまるまで様子を見る。



地震時に身の安全を図ることは、けがなどを防止するだけでなく、地震直後の行動に移行するための重要な行動です。

お問合せ: 調布消防署

042-486-0119

まず身の安全!!
地震!

消防団員募集!



調布市消防団と地域みなさまがあなたの力を待ち望んでいます!

お問い合わせ

調布市消防団事務局
(調布市役所総合防災安全課内)

042-481-7348

入団資格

調布市に居住しており、年齢18歳以上の健康な方